



ADAPTATION FOR THE FUTURE

気候変動適応情報プラットフォーム

A-PLAT

温暖化の影響によって現れる新しい気候、
予測される自然災害などに対してあらかじめ
備えることを「適応策」と言います。

適応しよう、未来に向かって。

変化する気候に、私たちの生活を、うまく適応させていくためにできること。
気候変動適応情報プラットフォームは、役立つ情報を発信していきます。



気候変動適応とは？

知っていますか？排出を削減する「緩和」とともに気候変動の影響に社会を「適応」させていくこと。



政府の取組

政府の適応計画が平成27年に閣議決定されました。日本の適応への様々な取り組みが始まっています。



全国・都道府県情報

今後どのように気候が変化し、影響を受けていくのでしょうか。予測結果をご覧いただけます。



地方公共団体の適応

地域の気候変動影響予測と適応計画策定・実施に役立つ情報をお届けします。



事業者の適応

気候変動の影響に適応する社会づくりへの取組を紹介します。



個人の適応

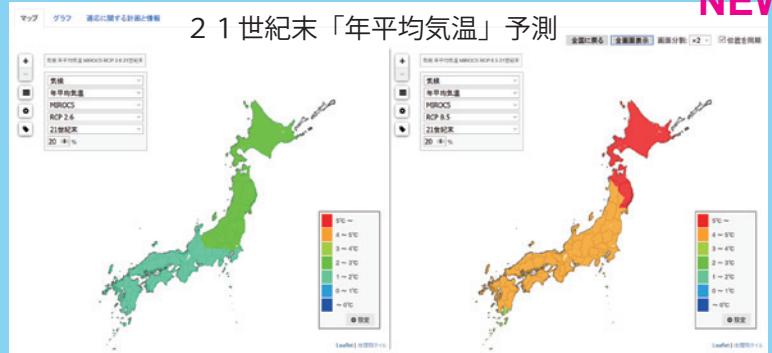
変化する気候に適応して快適な生活を送るための知恵と工夫を紹介します。

その他にも「海外情報」、「ツール（文献検索、気候変動影響統計ポータルサイト）」などをご用意しています。

全国・都道府県情報（WebGIS）

観測された気候変化、将来気候、気候変動影響、複数のモデルによる将来影響予測など最新のデータを参照することができます。

NEW!



A-PLATへの掲載情報を募集しています！



「事業者の適応」では、適応ビジネスを展開する国内の事業者の取組を「気候変動の影響への適応計画」の主要7分野別に紹介しています。



「ツール」の「文献検索」では、気候変動の影響評価に関する文献を「気候変動の影響への適応計画」の主要7分野別に紹介しています。



「お問い合わせ」ページから
ご連絡ください。

※内容によっては掲載できない場合がありますこと、あらかじめご了承ください。

気候変動適応情報プラットフォームポータルサイト
<http://www.adaptation-platform.nies.go.jp> またはこちらのQRコードから

Find us on 気候変動適応情報プラットフォーム Facebookで「いいね！」

温暖化対策には2つの取組が必要です。

私たちは日々の暮らしの中で温室効果ガスを大量に排出しており、そのことによって地球の平均気温は上昇を続けています。こうした地球温暖化やそれに伴う気候変動が、私たちの生活に大きな影響を及ぼすことが懸念されています。そこで「緩和」と「適応」、2つの温暖化対策への取組が必要となります。

■緩和

人間社会や自然の生態系が危機に陥らないためには、実効性の高い温室効果ガス排出削減の取組を行っていく必要があります。温室効果ガスの排出抑制に向けた努力が緩和です。

緩和とは？



適応とは？



■適応

緩和を実施しても温暖化の影響が避けられない場合、その影響に対して自然や人間社会のあり方を調整していくことが、適応です。

温暖化による影響と適応策

日本において適応に取り組むべく、平成27年に「気候変動の影響への適応計画」が策定されました。そこでは、影響が既に生じているまたはその恐れがある主要な7つの分野（「農業、森林・林業、水産業」「水環境・水資源」「自然生態系」「自然災害・沿岸域」「健康」「産業・経済活動」「国民生活・都市生活」）が明示されています。



農業、森林・
林業、水産業



水環境・水資源



自然生態系



自然災害・沿岸域



健康



産業・経済活動



国民生活・都市生活

今日からはじめよう！個人でできる適応の取組

これらは「適応」の一例です。

1 水を大切に使おう！

温暖化によって、雨が降る日がだんだん少なくなる可能性があります。ふだんから水を大切に使いましょう。エネルギーの節約にもなります。



3 自然災害にそなえよう！

雨が降る日が少なくなる可能性がある一方で、一度に降る雨の量が極端に多くなったり、大型の台風が来る可能性があります。

災害にそなえるために、避難場所や避難経路を調べておくことも大事です。



2 熱中症を予防しよう！

地球温暖化が進み、気温が上ることで、熱中症になる可能性が増え、これまで以上に熱中症に気をつける必要があると考えられています。

暑い日は、水をこまめに飲んだり、外に出るときは、帽子をかぶったりして、熱中症予防しましょう。



熱中症の主な症状

- 1.めまいやほてり
- 2.筋肉痛・筋肉のけいれん
- 3.体のだるさや吐き気
- 4.汗のかき方がおかしい
- 5.体温が高い、皮ふの異常

4 虫刺されに気をつけよう！

気温が上がることによって、寒い地域に住めなかった虫が、北上する可能性があります。例えば、デング熱という病気を広める蚊の住める地域が北に広がっていますので注意しましょう。



デング熱について

ヒトスジシマカという蚊が運ぶウイルスが原因となる病気です。2014年、代々木公園などで感染したと考えられる患者が発生しニュースになりました。温暖化が進むことによって、将来的に流行することが心配されています。



2017.06

リサイクル適性
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

R100
古紙パルプ混合率 100%再生紙を表す